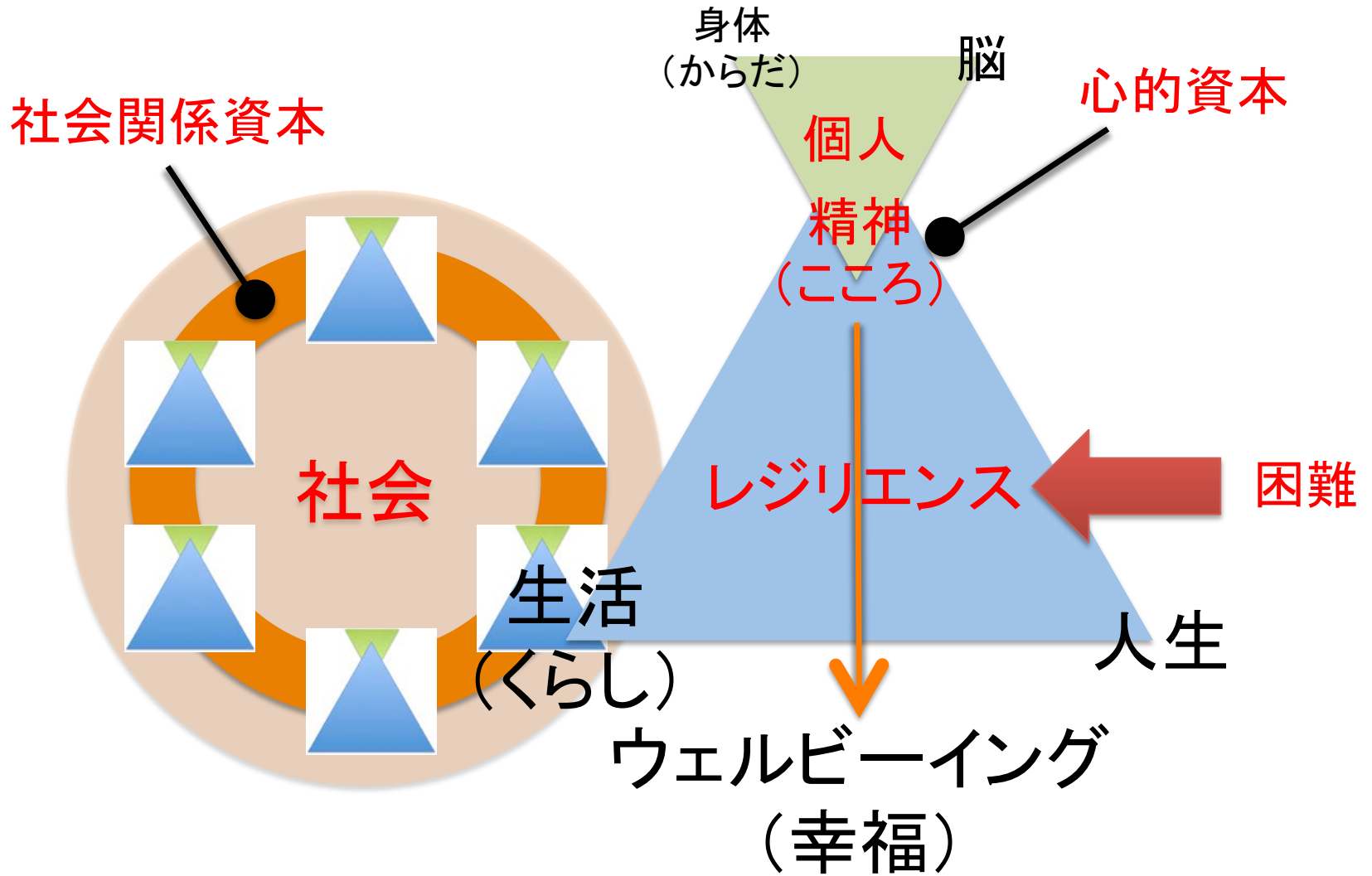


2014.9.28. 日本学術会議公開シンポジウム
「災害に対するレジリエンスの向上に向けて」

こころのレジリエンス社会

東京大学医学部附属病院 精神神経科
笠井清登

こころのレジリエンス社会



災害後のこころのケア

- 2011年3月11日 発災
- 2011年3月17日～6月30日 東大病院災害医療チーム石巻派遣
 - 身体科医師、看護師、薬剤師、精神科医、心理士など
- 石巻医療圏こころのケアでの役割分担から東松島市に入る。
- 2014年現在も活動継続

震災直後～1か月間（初期：医療）

- 避難所巡回と往診で、もともと精神科に通院していた方などをアウトリーチ（こちらから出向く）で支援。
- 避難所巡回で、環境因による不眠に対する対応。
ほかに、抑うつ、不安などがめだった。
- ストレス反応を示している方に、安心を与える。
子供の対応について親に指導。
- 身体科チームと連携。

震災後1か月～4月末（移行期）

地元医療機関への挨拶と紹介

- ・震災後1ヶ月を経て、地元の医療機関・交通が徐々に回復。
- ・医療機関への挨拶回りを行い、継続フォローが必要な方をほぼ全て紹介。
- ・定期的な避難所巡回は内科チームに任せ、軽症例にも対応していただく。

全戸訪問調査準備、小中学校への介入

- ・5月初めからの全戸訪問調査に協力。
- ・講演会および小中学校の子供への支援を依頼された。

5月～6月末（移行期）

全戸訪問調査からの要フォロー者への支援

- ・全戸訪問調査で症状がみとめられた方に、保健師が2次スクリーニングを行う。
⇒来所もしくは往診による医療支援を行う。

市の広報やパンフレットからの自発的来所への支援

- ・保健師もしくは精神保健福祉士による対応を行い、医療支援の必要性を判断。
⇒来所者への医療支援。数回のフォロー後に必要な場合は紹介。

突発的な医療支援を必要とする方への個別対応

- ・自宅もしくは避難所で突発的な要介入事例がみられている。
⇒保健所の判断に基づき、個別の症例に対応する。

7月以降（中長期：保健・予防）

市職員のかころのかア（職域精神保健）

- ・職員からのニーズに基づいて、簡易なスクリーニングを実施。
- ・かころのかアに関する啓発活動や相談窓口の設置（他大学チームと連携）。

市民のかころのかア

- ・うつ病の予防対策、アルコール依存への対策（他大学チームと連携）。
⇒特に孤立化が心配される単身仮設住宅入居者に講演・パンフレット配りなど。
- ・仮設住宅への移行に伴い、高齢者を対象とした生活調査。

自殺予防活動

- ・保健・医療・福祉・教育・行政の連携、自殺対策連絡会。
- ・自殺対策連絡会での講演、アドバイス。
- ・仮設住宅を拠点とした自殺予防活動。3か所のサポートセンター、見守り協力員。

現在（長期：保健・予防）

市職員のこころのケア（職域精神保健）

- ・月1回程度、市民ケアを担当する保健師のスーパーバイズを継続。
 - ・日常の精神保健活動および職員のマネジメント
- ・市役所全職員に対する個別相談（2014-）

市民のこころのケア・自殺予防活動

- ・健康診断を通じた精神保健スクリーニングのスーパーバイズ。
- ・こどものこころのケアの継続（親の生活困窮・精神的不調を通じた二次性のものが目立つ）。
- ・年2～3回程度、自殺対策連絡会での講演、アドバイス。
 - ・震災後の体制変更に対応した、新たな支援機関同士の連携。
 - ・増加するアルコール問題対策。

東松島市こころのケア活動から学ぶこと

個人のこころ(心的資本)と
社会の社会関係資本の関連

発災後初期(心的資本;医療)から
中長期(心的資本—社会関係資本;保健)への定点継続

中長期にわたる活動をマネジメントする人材が
被災地内・被災地外から 両方に必要

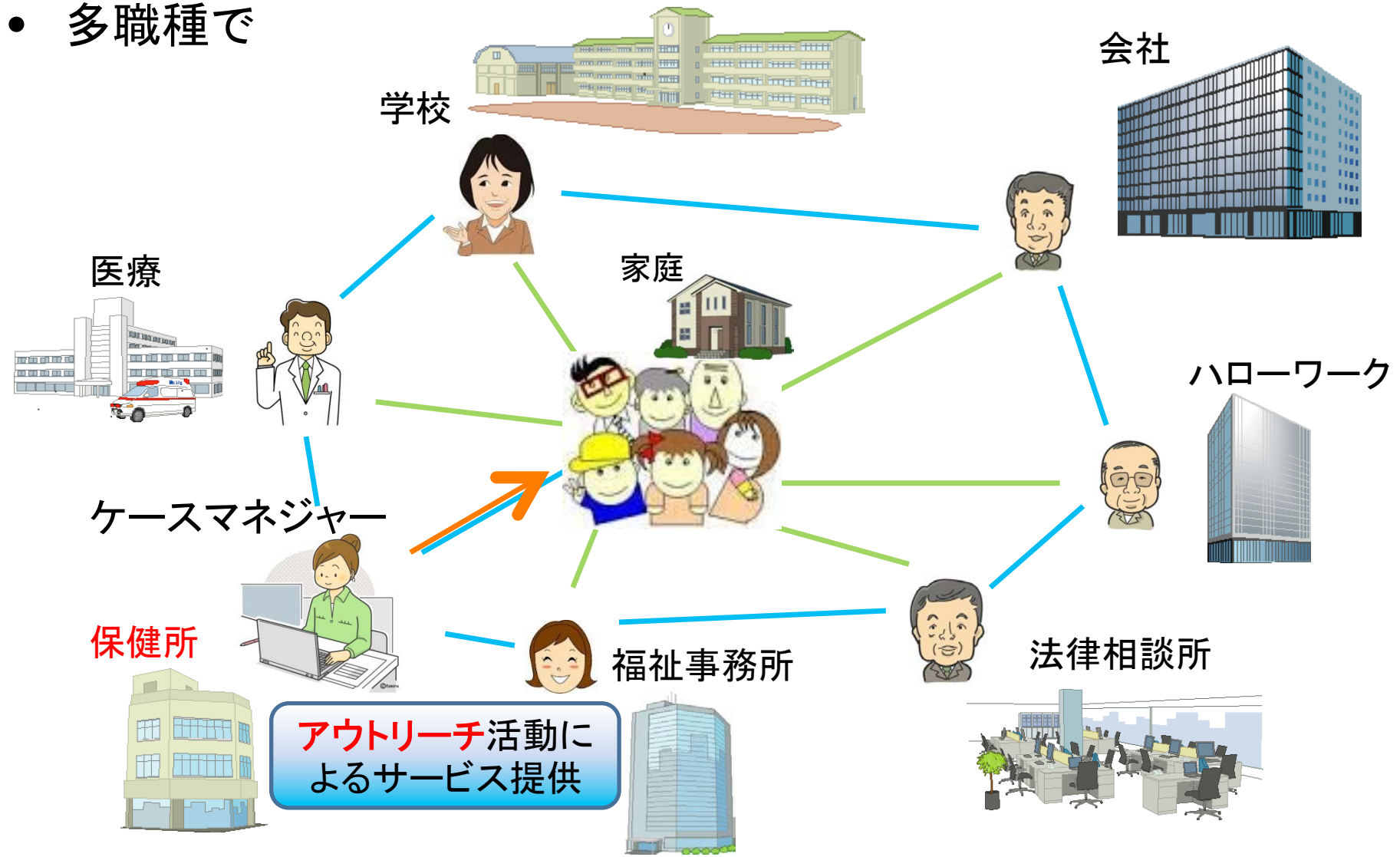
平時の地域精神保健体制
(こころのレジリエンス社会)の充実

東大病院「災害医療マネジメント部」開設 2012.4.1-

- 災害直後の救急医療から、中長期の保健・予防までを一貫してマネジメント
- 災害医療チームの地区割り、行政との橋渡し等をマネジメントする「災害医療保健マネジャー」の育成
- 平時から省庁、行政、保健所、医療、消防、警察等のネットワーキング
- 災害医療の医療人や学生に対する教育

地域包括的こころの健康支援システム

- 平時より
- 包括的に(こころ・からだ・くらし)
- 多職種で



こころのレジリエンス社会

